

多変数の SIEGEL MODULAR FORM の LIFTING の構成について

池田 保 (京都大学大学院理学研究科)

§ Introduction

$$f(\tau) = \sum_{N>0} a(N)q^N \in S_{2k}(\mathrm{SL}_2(\mathbb{Z})), \quad a(1) = 1$$

を weight  $2k$  の cusp form で Hecke 作用素の同時固有関数とする。  $L(s, f) = \sum_N a(N)N^{-s}$  を  $f(\tau)$  の  $L$  関数とする。

以下では weight  $2k$  を固定して、  $\varepsilon = (-1)^k$  とおく。  $N \in \mathbb{Q}_+^\times$  に対して、  $\mathbb{Q}(\sqrt{\varepsilon N})/\mathbb{Q}$  の判別式の絶対値を  $\mathfrak{d}_N$  で表わし、  $f_N = \sqrt{N\mathfrak{d}_N^{-1}}$  とおく。 また、  $\mathbb{Q}(\sqrt{\varepsilon N})/\mathbb{Q}$  に対応する原始的な Dirichlet 指標を  $\chi_N$  で表わす。  $N$  が自然数で  $\varepsilon N \equiv 0, 1 \pmod{4}$  ならば  $f_N$  も自然数である。  $B$  が正定値半整数対称行列のとき、  $D_B = \det(2B)$ ,  $\mathfrak{d}_B = \mathfrak{d}_{D_B}$ ,  $f_B = f_{D_B}$ ,  $\chi_B = \chi_{D_B}$  とおく。

$f(\tau)$  の Satake parameter を  $\{\alpha_p, \alpha_p^{-1}\}$  とする。  $\alpha_p$  は

$$(1 - p^{k-\frac{1}{2}}\alpha_p X)(1 - p^{k-\frac{1}{2}}\alpha_p^{-1} X) = 1 - a(p)X + p^{2k-1}X^2$$

によって与えられる。 志村対応によって  $f$  と対応する Kohnen subspace  $S_{k+\frac{1}{2}}^+(\Gamma_0(4))$  に属する Hecke eigenform を

$$h(\tau) = \sum_{\substack{N>0 \\ (-1)^k N \equiv 0, 1 \pmod{4}}} c(N)q^N$$

とする。  $D$  が fundamental discriminant で  $(-1)^k D > 0$  のとき、

$$c(f^2|D) = c(|D|) \sum_{d|f} \mu(d)\chi_{|D|}(d)d^{2k-1}a\left(\frac{f}{d}\right)$$

が成り立つ。

§ Siegel Series:

$p$  を素数とする。

$\mathbb{Z}_p$  上の  $2n$  次の non-degenerate half-integral symmetric matrix  $B$  に対して

$$D_B = \det(2B)$$

$$\delta(B) = \begin{cases} 2 \left[ \frac{\text{ord}_p(D_B)+1}{2} \right], & p \neq 2 \\ 2 \left[ \frac{\text{ord}_p(D_B)}{2} \right], & p = 2 \end{cases}$$

$$\xi(B) = \begin{cases} 1 & (-1)^n D_B \in (\mathbb{Q}_p^\times)^2, \\ -1, & [\mathbb{Q}_p(\sqrt{(-1)^n D_B}) : \mathbb{Q}_p] = 2, \text{ : unramified,} \\ 0, & [\mathbb{Q}_p(\sqrt{(-1)^n D_B}) : \mathbb{Q}_p] = 2, \text{ : ramified} \end{cases}$$

とおく。

$$b_p(B, s) = \sum_{R \in \mathcal{S}_{2n}(\mathbb{Q}_p) / \mathcal{S}_{2n}(\mathbb{Z}_p)} \psi(\text{tr}(BR)) p^{-\text{ord}_p(\mu(R))s}$$

を Siegel series という。ここで  $\mathcal{S}_{2n}(\mathbb{Q}_p)$ ,  $\mathcal{S}_{2n}(\mathbb{Z}_p)$  はそれぞれ  $\mathbb{Q}_p$ ,  $\mathbb{Z}_p$  係数の対称行列の空間である。また、 $\mu(R)$  は次のように定義される。 $(C, D)$  を symmetric coprime pair で  $D^{-1}C = R$  なるものをとるとき、 $\mu(R) = \det D$  で定義される。 $X$  の多項式  $\gamma_p(B; X)$  を

$$\gamma_p(B; X) = (1 - X)(1 - p^n \xi(B)X)^{-1} \prod_{i=1}^n (1 - p^{2i} X^2)$$

で定義する。このとき、 $X$  の多項式  $F(B; X)$  で  $F(B; p^{-s}) = b_p(B, s) \gamma_p(B; p^{-s})^{-1}$  を満たすものが存在する。 $F(B; X)$  は次のような関数等式を満たす。

$$F(B; p^{-2n+1} X^{-1}) = (p^{n+\frac{1}{2}} X)^{-\delta(B)+2-2\xi(B)^2} F(B; X)$$

$\tilde{F}_p(B; X) = X^{-\frac{\delta(B)}{2}+1-\xi(B)^2} F(B; X)$  とおく。このとき上の関数等式から、 $\tilde{F}_p(B; X^{-1}) = \tilde{F}_p(B; X)$  が成り立つことがわかる。

### § Eisenstein 級数の Fourier 展開

Eisenstein 級数の Fourier 係数の計算を復習する。 $s$  を複素変数とする。

$$E_{2n,l}(Z, s) = \det \text{Im}(Z)^{s-\frac{1}{2}} \sum_{\{C,D\}} \det(CZ + D)^{-l} |\det(CZ + D)|^{-2s+l}$$

を考える。 $E_{2n,l}(Z, s)$  は次のように Fourier 展開される。

$$E_{2n,l}(X + \sqrt{-1}Y, s) = \sum_{B \in \mathcal{S}'_{2n}(\mathbb{Z})} c_{2n,l}(B; Y, s+l) e\left(\frac{1}{2}BX\right)$$

ここで  $\mathcal{S}'_{2n}(\mathbb{Z})$  は  $j$  次の整係数 half-integral symmetric matrix の集合であり、 $B$  が非退化なら

$$c_{2n,l}(B; Y, s) = \Gamma_{2n,l}(B; Y, s) \prod_{p|D_B} F_p(B; p^{-2s})$$

$$\Gamma_{2n,l}(B; Y, s) = (\det Y)^{s-\frac{l}{2}} \frac{\Xi(Y, B; s + \frac{l}{2}, s - \frac{l}{2})}{\zeta(2s) \prod_{i=1}^n \zeta(4s - 2i)} L(\chi_B; 2s - n)$$

$$\Xi(g, h; s, s') = \int_{S_{2n}(\mathbb{R})} e(-hx) \det(x + \sqrt{-1}g)^{-s} \det(x - \sqrt{-1}g)^{-s'} dx$$

ここで

$$D_B = \det(2B)$$

$$\chi_B = \chi_{D_B}$$

$l$  が十分大のとき、この式において  $s = \frac{l}{2}$  とおけば正則な Eisenstein series の Fourier 展開をえる。  $B$  が正定値のとき、

$$\begin{aligned} \Xi(Y, B; l, 0) &= \frac{(-1)^{nl} 2^{-n(2n-1)} (2\pi)^{2nl}}{\Gamma_{2n}(l)} (\det(B))^{l-\frac{2n+1}{2}} e(\sqrt{-1}BY) \\ &= \frac{(-1)^{nl} 2^{2n} \pi^{2nl}}{\Gamma_{2n}(l)} (\det B)^{l-\frac{2n+1}{2}} e(\sqrt{-1}BY) \end{aligned}$$

$$\Gamma_{2n}(s) = \pi^{n(2n-1)/2} \prod_{i=0}^{2n-1} \Gamma(s - \frac{i}{2})$$

である。  $l$  が偶数ならば、

$$\Gamma_{2n}(l) = 2^{n^2+n-2nl} \pi^{n^2} \prod_{i=1}^n (2l - 2i)!$$

$$\zeta(l) = (-1)^{l/2} 2^{-1} (2\pi)^l \frac{\zeta(1-l)}{(l-1)!}$$

$$\prod_{i=1}^n \zeta(2l - 2i) = (-1)^{(2nl+n^2+n)/2} 2^{-n} (2\pi)^{2nl-n(n+1)} \prod \frac{\zeta(1-2l+2i)}{(2l-2i-1)!}$$

$$L(\chi_B, l-n) = (-1)^{(l+n^2+n)/2} (2\pi)^{l-n-1} \pi \frac{d_B^{\frac{1}{2}+n-l}}{(l-n-1)!} L(\chi_B, 1+n-l)$$

なので、  $E_{2n,l}(Z)$  の  $B$ -th Fourier 係数は

$$\frac{2^n}{\zeta(1-l) \prod_{i=1}^n \zeta(1+2i-2l)}$$

と

$$L(\chi_B; 1+n-l) \prod_{p|D_B} (p^{2l-2n-1})^{\frac{1}{2} \text{ord}_p \mathfrak{f}_B} F_p(B; p^{-l})$$

の積に等しい。  $l = k + n$  とおけば、  $k \equiv n \pmod{2}$  であり、この式は

$$L(\chi_B; 1 - k) f_B^{k - \frac{1}{2}} \prod_{p|D_B} \tilde{F}_p(B; p^{k - \frac{1}{2}})$$

となる。

### § Cohen の Eisenstein series

Cohen の関数  $H(k, N)$  は

$$H(k, N) = \begin{cases} \zeta(1 - 2k), & N = 0, \\ 0, & N \not\equiv 0, 1 \pmod{4}, \\ L(\chi_N, 1 - k) \sum_{d|f_N} \mu(d) \chi_N(d) d^{k-1} \sigma_{2k-1}(f_N/d), & N > 0, N \equiv 0, 1 \pmod{4}. \end{cases}$$

によって定義される。

Cohen の Eisenstein series  $\mathcal{H}_{k+\frac{1}{2}}(\tau)$  を

$$\mathcal{H}_{k+\frac{1}{2}}(\tau) = \sum_{N=0}^{\infty} H(k, N) q^N$$

によって定義する。これは weight  $k + \frac{1}{2}$  の modular form で Kohnen plus space  $M_{k+\frac{1}{2}}^+(\Gamma_0(4))$  に属する。さらに、 $\mathcal{H}_{k+\frac{1}{2}}(\tau)$  は志村対応により、一変数の Eisenstein 級数  $E_{2k}(\tau)$  と対応する。前節であらわれた因子  $L(\chi_B, 1 - k)$  は  $\mathcal{H}_{k+\frac{1}{2}}(\tau)$  の  $\mathfrak{d}_B$  番目の Fourier 係数であると考えることができる。

### § 主定理 1

以下では自然数  $k, n$  で  $k \equiv n \pmod{2}$  を満たすものを固定し、 $\varepsilon = (-1)^k$  とおく。  $N \in \mathbb{Q}_+^\times$  に対して、 $\mathbb{Q}(\sqrt{\varepsilon N})/\mathbb{Q}$  の判別式の絶対値を  $\mathfrak{d}_N$  で表わし、 $f_N = \sqrt{N\mathfrak{d}_N^{-1}}$  とおく。また、 $\mathbb{Q}(\sqrt{\varepsilon N})/\mathbb{Q}$  に対応する原始的な Dirichlet 指標を  $\chi_N$  で表わす。  $B$  を rank  $2n$  の正定値半整数対称行列とすると、 $(-1)^n \det(2B) \equiv 0, 1 \pmod{4}$  である。このとき、 $D_B = \det(2B)$ ,  $\mathfrak{d}_B = \mathfrak{d}_{D_B}$ ,  $f_B = f_{D_B}$ ,  $\chi_B = \chi_{D_B}$  とおく。

定理 1 :  $n \equiv k \pmod{2}$  のとき、 $A(B)$  を

$$A(B) = c(\mathfrak{d}_B) f_B^{k - \frac{1}{2}} \prod_p \tilde{F}_p(B; \alpha_p)$$

によって定義すれば

$$F(Z) = \sum_{B > 0} A(B) e(BZ)$$

は  $S_{k+n}(\mathrm{Sp}_n(\mathbb{Z}))$  に属する degree  $2n$ , weight  $k+n$  の Siegel cusp form で Hecke 作用素の同時固有関数である。ここで正方形行列  $T$  に対して  $e(T) := \exp(2\pi\sqrt{-1}\mathrm{tr}(T))$  である。  $F(Z)$  の standard  $L$ -function は

$$L(s, F) = \zeta(s) \prod_{i=1}^{2n} L(s + k + n - i, f)$$

である。したがって  $F(Z)$  で生成される  $\mathrm{Sp}_{2n}(\mathbb{A})$  の保型表現は既約で、その有限成分は退化主系列表現

$$\mathrm{Ind}_{P_{2n}(\mathbb{Q}_p)}^{\mathrm{Sp}_{2n}(\mathbb{Q}_p)} |\det|^{s_p}$$

に同型である。

## § 主定理 2

$f(\tau) \in S_{2k}(\mathrm{SL}_2(\mathbb{Z}))$  を normalized cuspidal Hecke eigenform とする。  $r, n$  を自然数とし、  $n+r \equiv k \pmod{2}$  と仮定する。定理 1 による  $f(\tau)$  の  $S_{k+n+r}(\mathrm{Sp}_{2n+2r}(\mathbb{Z}))$  への lift を  $F(Z)$  とする。  $g(Z) \in S_{k+n+r}(\mathrm{Sp}_r(\mathbb{Z}))$  を Hecke 作用素の同時固有関数とする。

$$\mathcal{F}_{f,g}(Z) = \int_{\mathrm{Sp}_r(\mathbb{Z}) \backslash \mathfrak{h}_r} F\left(\begin{pmatrix} Z & \\ & Z' \end{pmatrix}\right) \overline{g(Z')} (\det \mathrm{Im} Z')^{k+n-1} dZ', \quad Z \in \mathfrak{h}_{2n+r}$$

と定義する。  $\mathcal{F}_{f,g} \in S_{k+n+r}(\mathrm{Sp}_{2n+r}(\mathbb{Z}))$  である。

定理 2 :  $\mathcal{F}_{f,g}(Z)$  が恒等的に 0 でないならば  $\mathcal{F}_{f,g}(Z)$  は Hecke 作用素の同時固有関数であり、

$$L(s, \mathcal{F}_{f,g}) = L(s, g) \prod_{i=1}^{2n} L(s + k + n - i, f)$$

が成り立つ。ここで  $L(s, \mathcal{F}_{f,g}), L(s, g)$  はそれぞれ  $\mathcal{F}_{f,g}(Z), g(Z)$  の standard  $L$  関数である。

証明 :  $G_1 = \mathrm{Sp}_r, G_2 = \mathrm{Sp}_{2n+r}, H = \mathrm{Sp}_{2n+2r}$  とする。  $H$  の Siegel parabolic subgroup を  $P_H$  とおく。  $G_1 \times G_2$  は埋め込み

$$\begin{pmatrix} A_1 & B_1 \\ C_1 & D_1 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} A_2 & B_2 \\ C_2 & D_2 \end{pmatrix} \mapsto \left( \begin{array}{cc|cc} A_1 & & B_1 & \\ & A_2 & & B_2 \\ \hline C_1 & & D_1 & \\ & C_2 & & D_2 \end{array} \right)$$

によって  $H$  の部分群とみる。  $F(Z)$  で生成される  $H(\mathbb{A})$  の既約保型表現の  $p$  成分は退化主系列表現

$$\mathrm{Ind}_{P_H(\mathbb{Q}_p)}^{H(\mathbb{Q}_p)} (\chi_p \circ \det)$$

である。ここで  $\mathbb{Q}_p^\times$  の不分岐指標  $\chi_p$  は  $\chi_p(p) = \alpha_p$  で定める。  $\pi_1$  を  $g(Z)$  で生成される  $G_1(\mathbb{A})$  の既約 unitary 保型表現の  $p$  成分とする。  $\mathcal{F}_{f,g}(Z)$  で生成される  $G_2(\mathbb{A})$  の保型表現は長さ有限で unitary であるから既約表現の有限個の直和である。  $\pi_2$  を適当な既約成分の  $p$  成分とする。  $\pi_1, \pi_2$  は共に不分岐主系列表現である。

以下、簡単のためこの節では代数群等はすべて  $\mathbb{Q}_p$  上で考えることとし、記号から  $\mathbb{Q}_p$  等を省略する。このとき、

$$\mathcal{B}_{G_1 \times G_2}(\text{Ind}_{P_H}^H(\chi \circ \det)|_{G_1 \times G_2}, \pi_1 \otimes \pi_2) \neq (0)$$

である。ここで  $\rho_1, \rho_2$  を  $G_1 \times G_2$  の表現とすると、  $\mathcal{B}_{G_1 \times G_2}(\rho_1, \rho_2)$  は  $\rho_1 \times \rho_2$  上の  $G_1 \times G_2$  不変な bilinear form の空間である。さて、両側剰余類  $P_H \backslash H / (G_1 \times G_2)$  は  $r+1$  個の代表元  $\eta_0, \eta_1, \dots, \eta_r$  をもつ。ここで

$$\eta_i = \left( \begin{array}{ccc|ccc} & & & & & -\mathbf{1}_i \\ & & \mathbf{1}_{r-i} & & & \\ \mathbf{1}_i & & & & & \\ & & & \mathbf{1}_{2n+r-i} & & \\ \hline \mathbf{1}_i & & \mathbf{1}_i & & & \\ & & & & & \\ & & & & \mathbf{1}_{r-i} & \\ & & & & \mathbf{1}_i & -\mathbf{1}_i \\ & & & & & \mathbf{1}_{2n+r-i} \end{array} \right)$$

である。ここで block の大きさは縦横とも順に  $i, r-i, i, 2n+r-i, i, r-i, i, 2n+r-i$  である。

このとき、  $Q_i = (\eta_i^{-1} P_H \eta_i) \cap (G_1 \times G_2)$  は

$$\left\{ \left( \begin{array}{cc|cc} \alpha & 0 & \beta & * \\ * & A & * & * \\ \hline \gamma & 0 & \delta & * \\ 0 & 0 & 0 & D \end{array} \right) \times \left( \begin{array}{cc|cc} \alpha & 0 & -\beta & * \\ * & A' & * & * \\ \hline -\gamma & 0 & \delta & * \\ 0 & 0 & 0 & D' \end{array} \right) \mid \begin{array}{l} \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ \gamma & \delta \end{pmatrix} \in \text{Sp}_i, \\ A = {}^t D^{-1} \in \text{GL}_{r-i}, \\ A' = {}^t D'^{-1} \in \text{GL}_{2n+r-i}, \end{array} \right\}$$

である。Parabolic subgroup  $P_i^{(1)} \subset G_1, P_i^{(2)} \subset G_2$  を

$$P_i^{(1)} = \left\{ \left( \begin{array}{cc|cc} \alpha & 0 & \beta & * \\ * & A & * & * \\ \hline \gamma & 0 & \delta & * \\ 0 & 0 & 0 & D \end{array} \right) \mid \begin{array}{l} \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ \gamma & \delta \end{pmatrix} \in \text{Sp}_i, \\ A = {}^t D^{-1} \in \text{GL}_{r-i}, \end{array} \right\}$$

$$P_i^{(2)} = \left\{ \left( \begin{array}{cc|cc} \alpha & 0 & \beta & * \\ * & A' & * & * \\ \hline \gamma & 0 & \delta & * \\ 0 & 0 & 0 & D' \end{array} \right) \mid \begin{array}{l} \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ \gamma & \delta \end{pmatrix} \in \text{Sp}_i, \\ A' = {}^t D'^{-1} \in \text{GL}_{2n+r-i}, \end{array} \right\}$$

で定義する。  $X_i$  ( $i = 0, \dots, r+1$ ) を  $\text{Ind}_{P_H}^H(\chi \circ \det)$  の部分空間で support が

$$\bigcup_{j=i}^r P_H \eta_j(G_1 \times G_2)$$

に含まれるような元全体からなるものとする。ただし  $X_{r+1} = (0)$  とする。このとき、 $X_0, \dots, X_r$  は  $G_1 \times G_2$  の作用で不変な部分空間で

$$\text{Ind}_{P_H}^H(\chi \circ \det) = X_0 \supset X_1 \cdots \supset X_r \supset X_{r+1} = (0),$$

であり、

$$X_i/X_{i+1} \simeq \text{Ind}_{Q_i}^{G_1 \times G_2}(\chi \circ \det \cdot \delta_{P_H}^{\frac{1}{2}})^{\eta_i} \delta_{Q_i}^{-\frac{1}{2}}$$

に等しい。ここで  $(\chi \circ \det \cdot \delta_{P_H}^{\frac{1}{2}})^{\eta_i}(q) = (\chi \circ \det \cdot \delta_{P_H}^{\frac{1}{2}})(\eta_i q \eta_i)$  であり、 $\delta_{P_H}, \delta_{Q_i}$  はそれぞれ  $P_H, Q_i$  の modulus character である。さて、Jacquet module  $r_{P_i^{(1)}}^{G_1} \pi_1, r_{P_i^{(2)}}^{G_2} \pi_2$  はそれぞれ  $\text{Sp}_i \times \text{GL}_{r-i}, \text{Sp}_i \times \text{GL}_{2n+r-i}$  の表現である。上の考察から、適当な  $i$  ( $0 \leq i \leq r$ ) に対して、Jacquet module  $r_{P_i^{(1)}}^{G_1} \pi_1, r_{P_i^{(2)}}^{G_2} \pi_2$  はそれぞれ

$$\rho^{(1)} \boxtimes (\chi^{-1} \circ \det) | \det |^{-n - \frac{r-i}{2}}$$

$$\rho^{(2)} \boxtimes (\chi^{-1} \circ \det) | \det |^{-\frac{r-i}{2}},$$

という形の subquotient で  $\rho^{(1)} \simeq \rho^{(2)}$  となるものを含んでいなくてはならない。 $\pi_1$  の Satake parameter を  $\{\beta_1^{\pm 1}, \dots, \beta_r^{\pm 1}\}$  とすれば、 $r_{P_i^{(1)}}^{G_1} \pi_1$  が  $\rho^{(1)} \boxtimes (\chi^{-1} \circ \det) | \det |^{-n - \frac{r-i}{2}}$  という形になるのは  $\{\beta_1^{\pm 1}, \dots, \beta_r^{\pm 1}\}$  の中に  $\alpha_p^{-1} p^{-n - \frac{1}{2}}, \dots, \alpha_p^{-1} p^{-n - r + i + \frac{1}{2}}$  に等しいものがあるときに限る。それを  $\beta_{i+1}, \dots, \beta_r$  としてよい。すると、 $\pi_2$  の Satake parameter は  $\{\beta_1^{\pm 1}, \dots, \beta_r^{\pm 1}\}$  から  $\{\beta_{i+1}^{\pm 1}, \dots, \beta_r^{\pm 1}\}$  を取り除き、かわりに  $\alpha_p^{-1} p^{-n - \frac{1}{2}}, \dots, \alpha_p^{-1} p^{-n - r + i + \frac{1}{2}}$  とその逆数を付け加えたものである。いずれにしても  $i$  や  $\beta_{i+1}, \dots, \beta_r$  の取り方に関係なく、 $\pi_2$  の Satake parameter として可能なものは  $\{\beta_1^{\pm 1}, \dots, \beta_r^{\pm 1}, \alpha_p^{\pm 1} p^{\frac{n-1}{2}}, \dots, \alpha_p^{\pm 1} p^{-\frac{n-1}{2}}\}$  であることがわかる。とくに、 $\mathcal{F}_{f,g}(Z)$  で生成される  $G_2(\mathbb{A})$  の表現の  $p$  成分は isotypic であることがわかる。しかるにこれは class 1 vector  $\mathcal{F}_{f,g}$  で生成されているので既約である。従って  $\mathcal{F}_{f,g}$  は Hecke 作用素の同時固有関数であり、その standard  $L$  関数は

$$L(s, \mathcal{F}_{f,g}) = L(s, g) \prod_{i=1}^{2n} L(s + k + n - i, f)$$

で与えられる。

定理 2 において  $\mathcal{F}_{f,g}$  が恒等的には 0 でない実例をあげる。  $2k = 20, n = r = 1$  の場合を考える。  $f(\tau) = \sum_{N=1}^{\infty} b(N) q^N \in S_{20}(\text{SL}_2(\mathbb{Z}))$  を weight 20 の normalized Hecke eigenform とする。 Fourier 係数  $b(N)$  の値をいくつかあげる。

$p$	$b(p)$	$p$	$b(p)$	$p$	$b(p)$
2	456	7	-16917544	17	225070099506
3	50652	11	-16212108	19	-1710278572660
5	-2377410	13	50421615062	23	14036534788872
				29	1137835269510

weight  $21/2$  の modular form  $\delta_{21}(\tau)$  を次のように定義する。

$$\delta_{21}(\tau) = \frac{1}{16\pi\sqrt{-1}}(4E_8(4\tau)\theta'(\tau) - E_8'(4\tau)\theta(\tau)) = \sum_{n=1}^{\infty} c(n)q^n,$$

$$E_8(\tau) = 1 + 480 \sum_{n=1}^{\infty} \sigma_7(n)q^n, \quad \theta(\tau) = \sum_{n=-\infty}^{\infty} q^{n^2}$$

とおく。 $\delta_{21}(\tau)$  は志村対応によって  $f(\tau)$  と対応する Kohnen plus subspace  $S_{21/2}^+(\Gamma_0(4))$  の元である。fundamental discriminant  $D$  に対して  $c(D)$  の値をいくつか示す。

$D$	$c(D)$	$D$	$c(D)$
1	1	17	526320
5	-360	21	-710640
8	-13680	24	2475360
12	-177120	28	8830080
13	266760	29	-5835240

Miyawaki [13] によれば  $\dim S_{12}(\mathrm{Sp}_3(\mathbb{Z})) = 1$  であり、 $F^{(3)}(Z) \in S_{12}(\mathrm{Sp}_3(\mathbb{Z}))$  とすればその

$$\frac{1}{2} \begin{pmatrix} 2 & -1 & \\ -1 & 2 & -1 \\ & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

番目の Fourier 係数は 0 でない。この Fourier 係数が 1 となるよう  $F^{(3)}(Z)$  を正規化しておく。

$F(Z)$  を定理 1 による  $f(\tau)$  の  $S_{12}(\mathrm{Sp}_4(\mathbb{Z}))$  への lift とする。  
正定値半整数対称行列  $B$  が

$$2B = \begin{pmatrix} 2 & \lambda_1 & \lambda_2 & \lambda_3 \\ \lambda_1 & 2 & -1 & \\ \lambda_2 & -1 & 2 & -1 \\ \lambda_3 & & -1 & 2 \end{pmatrix}, \quad \lambda = (\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3) \in \mathbb{Z}^3$$

という形のときに  $F(Z)$  の  $B$  番目の Fourier 係数  $A(B)$  を計算する。 $D_B = \det(2B)$  の取りうる値は 4, 5, 8 の 3 通りでそうなるような  $\lambda$  の個数はそれぞれ 6, 8, 1 である。

$\det B = 4$  となるのは  $\lambda = \pm(0, 1, 0), \pm(1, 0, -1), \pm(1, -1, 1)$  の場合でそのとき、

$$F_2(B; X) = 1 - (2^2 + 2^3)X + 2^5 X^2, \\ A(B) = c(1)(b(2) - 2^9 - 2^{10}) = -1080$$

である。



$\det B = 5$  となるのは  $\lambda = \pm(1, 0, 0), \pm(1, -1, 0), \pm(0, 0, 1), \pm(0, 1, -1)$  の場合でそのとき、 $A(B) = c(5) = 360$  である。

$\det B = 8$  となるのは  $\lambda = (0, 0, 0)$  の場合でそのとき、 $A(B) = c(8) = -13680$  である。

$\dim S_{12}(\mathrm{Sp}_1(\mathbb{Z})) = \dim S_{12}(\mathrm{Sp}_3(\mathbb{Z})) = 1$  であるので、 $F(Z)$  の  $\mathfrak{h}_1 \times \mathfrak{h}_3$  への制限は  $\Delta(\tau) \times F^{(3)}(Z)$  の

$$-1080 \times 6 + 360 \times 8 - 13680 = -17280$$

倍である。

したがって  $g(\tau) = \Delta(\tau)$  とおけば

$$\mathcal{F}_{f,g}(Z) = -17280 \langle \Delta, \Delta \rangle F^{(3)}(Z) \in S_{12}(\mathrm{Sp}_3(\mathbb{Z}))$$

は恒等的には 0 でない。したがって定理 2 により

$$L(s, F^{(3)}) = L(s+10, f)L(s+9, f)L(s, \Delta, \mathrm{st})$$

である。(ただし  $\beta_p^{\pm 1}$  を  $\Delta(\tau)$  の Satake parameter とするとき、

$$L(s, \Delta, \mathrm{st}) = \prod_p [(1 - \beta_p^2 p^{-s})(1 - p^{-s})(1 - \beta_p^{-2} p^{-s})]^{-1}$$

である) これは Miyawaki [13] において数値計算によって予想されていたものと一致する。

#### REFERENCES

1. J. Arthur, *Unipotent automorphic representations: conjectures*, Asterisque **171-172** (1989), 13-71.
2. R. E. Borcherds, E. Freitag, and R. Weissauer, *A Siegel cusp form of degree 12 and weight 12*, J. Reine Angew. Math. **494** (1998), 141-153.
3. S. Breulman and M. Kuss, *On a conjecture of Duke-Imamoglu*, preprint.
4. H. Cohen, *Sums involving the values at negative integers of L-functions of quadratic characters*, Math. Ann. **217** (1975), 271-285.
5. J. H. Conway and N. J. A. Sloane, *Sphere packings, lattices and groups. Third edition. Grundlehren der Mathematischen Wissenschaften*, vol. 290., Springer-Verlag, New York, 1999.
6. M. Eichler and D. Zagier, *The theory of Jacobi forms. Progress in Mathematics*, vol. 55, Birkhäuser Boston, Inc., Boston, Mass., 1985.
7. E. Freitag, *Siegelsche Modulfunktionen*, Springer-Verlag, Berlin-New York, 1983.
8. T. Ibukiyama, *Conjecture on the lifting of modular forms to Siegel modular forms*, informal note.
9. H. Katsurada, *An explicit formula for Siegel series*, Amer. J. Math. **121** (1999), 415-452.
10. Y. Kitaoka, *Dirichlet series in the theory of Siegel modular forms*, Nagoya Math. J. **95** (1984), 73-84.
11. W. Kohnen, *Modular forms of half-integral weight on  $\Gamma_0(4)$* , Math. Ann. **248** (1980), 249-266.
12. W. Kohnen and D. Zagier, *Values of L-series of modular forms at the center of the critical strip*, Invent. Math. **64** (1981), 175-198.
13. I. Miyawaki, *Numerical examples of Siegel cusp forms of degree 3 and their zeta functions*, Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ. **46** (1992), 307-309.
14. G. Shimura, *Euler products and Eisenstein series. CBMS Regional Conference Series in Mathematics*, vol. 93, the American Mathematical Society, Providence, RI, 1997.
15. G. Shimura, *Euler products and Fourier coefficients of automorphic forms on symplectic groups*, Invent. Math. **116** (1994), 531-576.
16. G. Shimura, *Introduction to the arithmetic theory of automorphic functions*, Publications of the Mathematical Society of Japan, 11, 1974.
17. G. Shimura, *On Eisenstein series*, Duke Math. J. **50** (1983), 417-476.
18. G. Shimura, *On modular forms of half integral weight*, Ann. of Math. **97** (1973), 440-481.
19. D. Zagier, *Sur la conjecture de Saito-Kurokawa (d'après H. Maass)*, Seminar on Number Theory 1979-80, Paris, Progr. Math., 12,, Birkhäuser, Boston, Mass., 1981, pp. 371-394.